

第3回慰霊塔(碑)のあり方検討協議会 慰霊塔(碑)現場確認

- 1 日程:平成25年10月28日(月)
- 2 集合場所:沖縄県庁1階ロビー(13:15集合、13:30出発)、糸満市役所1階ロビー(13:45集合、14:00出発)
- 3 移動:県公用車(ワゴン車等3台)

	慰霊塔(碑)	設置・管理者等	市町村	場所	備考
1	白梅之塔	沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会	糸満市	真栄里	学徒隊の慰霊塔(碑)として、慰霊祭の開催、現役学生への参加呼びかけ、語り部等に取り組んでいる。
2	南北之塔	真栄平自治会	糸満市	真栄平	南北の塔周辺に個人及び団体の慰霊塔(碑)が複数建立されており、建立者に撤去、整理を呼びかけている。
3	沖縄工業健児之塔	沖縄工業高等学校同窓会	糸満市	平和祈念公園内	学徒隊の慰霊塔(碑)として、平和祈念公園内に建立されている。同窓会の慰霊祭等において、現役高校生の参加も呼びかけている。
4	沖縄師範健児之塔	1 清掃管理 ・公益財団法人沖縄県平和祈念財団 2 慰霊祭開催 ・一般社団法人うーとーとおきなわ	糸満市	摩文仁	慰霊塔関係者の高齢化が進んでおり、一時は慰霊祭開催を中断したが、一般社団法人うーとーとおきなわの取り組みにより慰霊祭が復活した。
5	南冥之塔	沖縄総合事務局	糸満市	摩文仁	県内で唯一、国が直接管理している慰霊塔

第3回 慰霊塔(碑)のあり方検討協議会 現場確認乗車計画

集合場所1:沖縄県庁1階ロビー 13:15集合、13:30出発

集合場所2:糸満市役所1階ロビー 13:45集合、14:00出発

1号車【車名:三菱デリカ・8名乗り(農林水産総務課公用車)】

	乗車氏名	座席等	備考②
1	与儀 清祐	運転手	事務局(沖縄県福祉・援護課主任)
2	伊川 秀樹	助手席	沖縄県福祉・援護課長
3	仲吉 勇	後部席	真栄平自治会 区長
4	大城 藤六	〃	元糸満市教育長
5	上原 兼治	〃	公益財団法人 沖縄県平和祈念財団 事務局長
6	稲嶺 盛和	〃	糸満市社会福祉課長
7	-		
8	-		

2号車【車名:トヨタハイエース・10名乗り(物品管理課公用車)】

	乗車氏名	座席等	備考②
1	物品管理課運転士	運転手	
2	又吉 剛	助手席	事務局(沖縄県福祉・援護課班長)
3	宮城 篤正	後部席	一般財団法人 沖縄県遺族連合会 理事
4	島袋 光尋	〃	沖縄工業高等学校同窓会会長
5	仲田 英安	〃	一般社団法人うーとーとおきなわ代表理事
6	與古田 達郎	〃	浦添市福祉総務課長
7	青田 治夫	〃	与那原町住民課長
8	山城 貴子	〃	沖縄県平和・男女参画課長
9	-		
10	-		

3号車【車名:ホンダ フィット・5名乗り(福祉・援護課公用車)】

	乗車氏名	座席等	備考②
1	平川 倫子	運転手	事務局(沖縄県福祉・援護課主任)
2	金城 武	後部席	沖縄県福祉企画統括監
3	中山 きく	〃	沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会会長
4			

第3回慰霊塔(碑)のあり方検討協議会 現場確認動線図



※糸満市内からの参加者は、糸満市役所1階ロビー集合予定

A 沖縄県庁・・・午後1時30分頃出発予定

B 糸満市役所・・・午後2時頃合流のうえ出発予定

C 白梅之塔・・・設置・管理者: 沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会

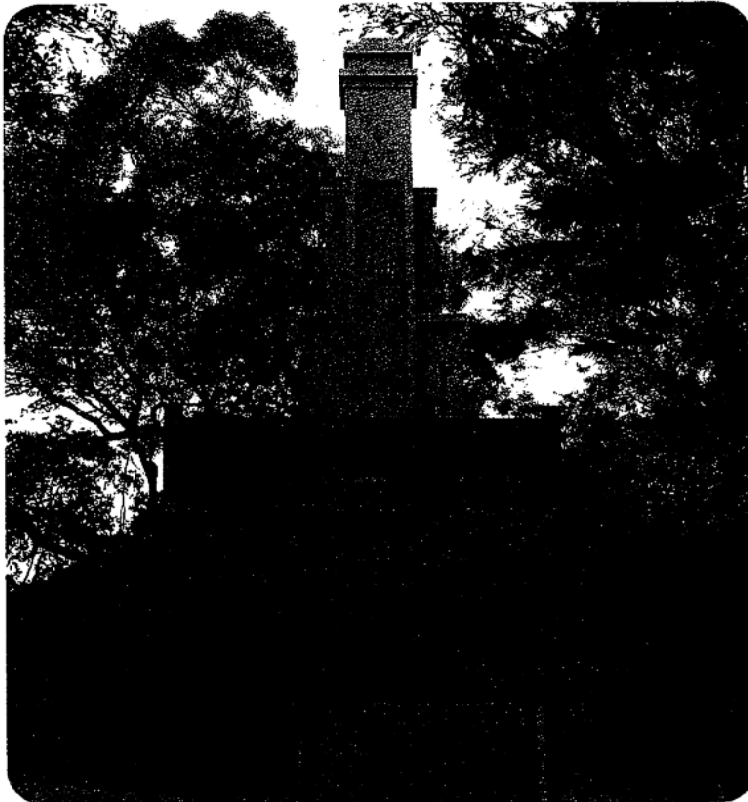
D 南北之塔・・・設置・管理者: 真栄平自治会

E 沖縄工業健児之塔・・・設置・管理者: 沖縄県立工業高等学校同窓会

F 沖縄師範健児之塔・・・設置・管理: 沖縄師範健児之塔遺族会

白梅之塔

(場所：p12 参照)



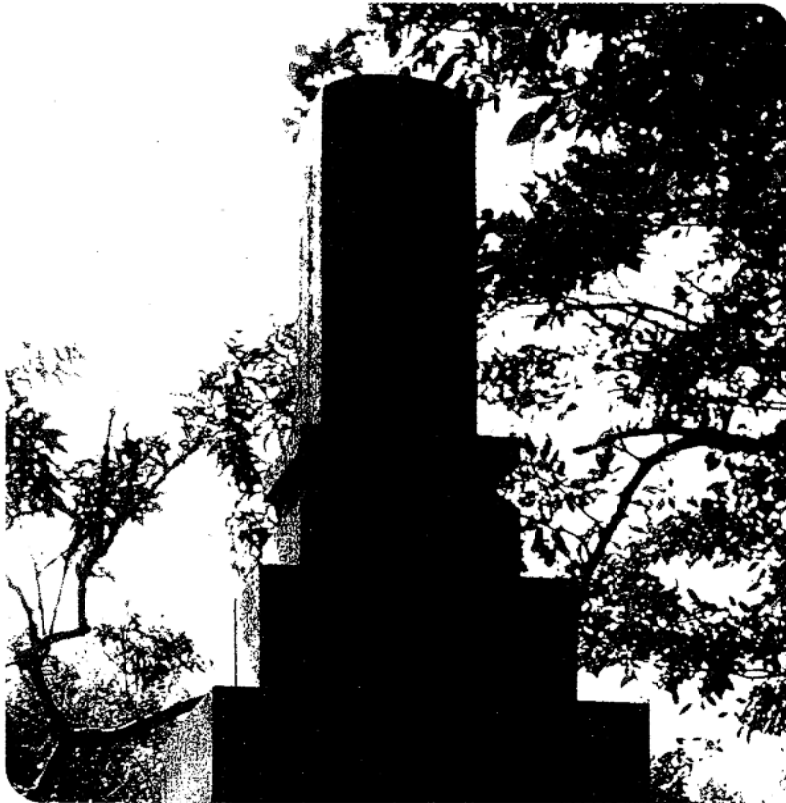
所在地 糸満市国吉
建立年月日 昭和 22 年 1 月 (平成 4 年改修)
合祀者数 132 柱
管理団体 白梅同窓会

沖縄県立第二高等女学校の 4 年生 56 人は昭和 20 年 3 月 6 日、東風平国民学校の第 24 師団第 1 野戦病院衛生看護教育隊に入隊、集中教育を受け始めた。米軍の艦砲射撃が始まると、東風平村の八重瀬岳にある山部隊第 1 野戦病院へ配属された。戦況が悪化した 6 月 4 日、軍の解散命令を受け地上戦の中を彷徨し 22 人が戦没した。この地に撤退した病院に合流した学徒から 10 人の犠牲者が出ている。校章の白梅から戦後、「白梅学徒隊」と呼ばれるようになった。

南北之塔

(場所：p13 参照)

萬基



所在地 糸満市真栄平
建立年月日 昭和 21 年 6 月 (昭和 41 年改修)
合祀者数 6,000 余柱
管理団体 真栄平自治会

沖縄戦では真栄平は住民の 6 割が亡くなり、兵士と合わせると 6000 人の犠牲者を出した激戦地。昭和 21 年、収容所から戻ってきた区民は住宅を建てる前から遺骨収集を行い、同年 6 月ころ現在地に納骨堂を設置した。昭和 41 年に改築するにあたり、土地を購入し区民の総意で塔名を「南北之塔」とした。

所
建
合
管

真壁
月、付

沖縄工業健児之塔

(場所：p14 参照)



所在地 糸満市摩文仁
建立年月日 昭和33年5月（平成5年11月改修）
合祀者数 167柱（生徒160柱、教師7柱）
管理団体 沖縄県立工業高等学校同窓会

沖縄戦で沖縄県立工業学校の職員生徒も3月23日に召集され、下級生は通信隊として、上級生は測量隊として鉄血勤皇隊を編成、各地で参戦した。工業健児隊は日本軍とともに首里から南部に退却し、この塔の後方にある洞くつに退避したが、6月19日解散して自由行動をとるように命令され、壕内で自決する者や敵軍に斬り込む者ら多くの戦死者を出した。

沖縄師範健児之塔

(場所：p15 参照)

開



所在地 糸満市字摩文仁
建立年月日 昭和 21 年 3 月
合祀者数 319 柱
管理団体 沖縄師範健児之塔遺族会

所
建
合
管

昭和 20 年 3 月 31 日、沖縄師範学校生徒に召集令が下り、予科 2 年から本科 3 年まで 386 人は鉄血勤皇師範隊を編成し日本軍の作戦に参加した。5 月下旬、戦況が不利になったため、司令官とともに首里から南部へ移動、摩文仁の壕まで退却した。6 月 19 日、解散命令の出た後は、敵軍に斬り込む者や壕内で自決する者など多くの犠牲者を出した。終戦後、生存者と竜潭同窓会員の寄付によってこの塔ができた。

沖縄

南冥の塔

(場所：p15 参照)

第八章 そのほかの団体関係



所在地 糸満市摩文仁
 建立年月日 昭和 29 年 9 月
 合祀者数 12,000 柱
 管理団体 内閣府沖縄県総合事務局

所
建
管

摩文仁周辺は沖縄戦の終焉地で軍人、住民、学徒隊が追い詰められ逃げ場を失った所である。壕もなく岩陰や木の陰まで避難民でいっぱいだった。そこへ米軍の連日連夜にわたる苛烈な砲撃や爆撃が襲いかかり、多数の死傷者を出した。沖縄戦に参戦し当時の地獄絵のような惨状が頭から離れなかったという日系二世の米兵ヤマモト・タツオ氏が昭和 29 年 9 月、摩文仁区民とともに身元不明の兵士や住民の遺骨 1 万 2000 柱を収骨して祀ったのである。

沖縄
北谷や
の死者
日本軍
塔を建
数の弾